

TANGE BY TANGE 1949-1959

丹下健三が見た丹下健三

会期:2015年1月23日(金)～3月28日(土)

会場=TOTO ギャラリー・間(東京都港区南青山1-24-3 TOTO 乃木坂ビル 3F)

休館日=日曜・月曜・祝日 ただし3月22日(日)は開館

開館時間=11:00～18:00

入場無料

シンポジウム:2015年3月22日(日)14:00～

会場=建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)



カメラを手に竣工当時の香川県庁舎と対峙する丹下 1958年頃撮影 撮影者不明

当時、丹下は「石が中世の感動をよびさましたように、コンクリートは現代の感動を人びとに伝えてくれるにちがない」と考えていた。

「TANGE BY TANGE 1949-1959／丹下健三が見た丹下健三」について

戦後日本を代表する建築家 丹下健三の没後 10 年の節目に開催する本展は、処女作「広島平和会館原爆記念陳列館」（1952 年）のプロジェクト開始から初期代表作のひとつ「香川県庁舎」（1958 年）完成までの 10 年間（1949～59 年）に焦点を当て、丹下自らが撮影した 35mm フィルムのコンタクトシートを通してその初期像を紹介します。日本の再生を担う建築家のひとりとしてデビューした丹下健三は、初の外遊を果たし、「世界の Kenzo Tange」になっていったこの 10 年間、自らカメラを携えて撮影を行い膨大な数の写真を遺しました。写真には自身の作品のみならず、桂離宮・龍安寺をはじめとする伝統建築やル・コルビュジエ作品、外遊中に交流した海外の建築家たちの姿も含まれ、この時代の活動の克明な証言集となっています。現物としては本展が初公開となる 70 余点に及ぶコンタクトシートには、所々に自身によるトリミング指示の赤線が引かれ、若き丹下がどのように建築と対峙したのか、建築家の思索と葛藤の痕跡を生々しく伝えています。またこの展覧会に併せ、丹下の 10 回忌に当たる 2015 年 3 月 22 日（日）に記念シンポジウムを開催いたします。本展ゲストキュレーターである豊川斎^{さいかく}氏をモデレーターに迎え、本展監修者である岸和郎氏ほか、建築家、歴史家の方々にご出演いただき、丹下健三の作品とその建築家像について多角的に検証していただきます。

展覧会情報

展覧会名（日）	TANGE BY TANGE 1949-1959／丹下健三が見た丹下健三
展覧会名（英）	TANGE BY TANGE 1949-1959 ／KENZO TANGE AS SEEN THROUGH THE EYES OF KENZO TANGE
会期	2015 年 1 月 23 日（金）～3 月 28 日（土）
開館時間	11:00～18:00
休館日	日曜・月曜・祝日 ただし 3 月 22 日（日）は開館
入場料	無料
会場	TOTO ギャラリー・間 〒107-0062 東京都港区南青山 1-24-3 TOTO 乃木坂ビル 3F TEL=03-3402-1010 URL= http://www.toto.co.jp/gallery/
交通案内	東京メトロ千代田線 乃木坂駅 3 番出口徒歩 1 分 都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7 番出口徒歩 6 分 東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a 番出口徒歩 7 分 東京メトロ銀座線・半蔵門線・都営地下鉄大江戸線 青山一丁目駅 4 番出口徒歩 7 分
主催	TOTO ギャラリー・間
企画	TOTO ギャラリー・間運営委員会（特別顧問＝安藤忠雄、委員＝岸 和郎／妹島和世／内藤 廣／エルウィン・ビライ）＋原 研哉
監修	岸 和郎
ゲストキュレーター	豊川斎 ^{さいかく}
会場構成	木下昌大
企画協力	内田道子
後援	（一社）東京建築士会／（一社）東京都建築士事務所協会 （公社）日本建築家協会関東甲信越支部／（一社）日本建築学会関東支部

「TANGE BY TANGE 1949-1959／丹下健三が見た丹下健三」コンセプト

戦後日本を代表する建築家 丹下健三は、写真をこよなく愛し自らの作品や家族のみならず、日本の古建築を数多く撮影してきた。また、1960年には写真家 石元泰博、建築家 ヴァルター・グロピウス、グラフィックデザイナー ヘルベルト・バイヤーとともに写真集『KATSURA』（1960年、造型社）を出版し、従来の日本建築史観を問い直すだけでなく、写真という表現が現代建築の創作の原動力となること、見るものがつくることに直結することを知らしめた。

丹下自身が撮影した写真は建築系雑誌や自らの作品集でも採用され、既に耳目に触れているものもあるが、本展覧会では多くの未公開写真をつまびらかにすることで、「丹下の眼」にフォーカスを当ててみたい。これにより丹下が自作のどの部分をファインダーに納めようとし、ミケランジェロやル・コルビュジエの作品の何処を執拗に捉えようとしたのかがわかる。

また、本展覧会に出品する写真は1950年代に撮影されたものが大半であり、時代的には、「広島平和会館原爆記念陳列館」（1952年）から始まり「東京都庁舎」（1957年）、「香川県庁舎」（1958年）、「今治市庁舎・公会堂」（1958年）、マサチューセッツ工科大学（MIT）客員教授就任（1959年）あたりまでとなる。年齢的には丹下が36歳から46歳までであり、「広島平和会館原爆記念陳列館」竣工時に丹下は40歳で、決して早咲きの建築家ではなかった。本展覧会は巨匠と呼ばれる以前の「丹下の眼」を通じて、「国立屋内総合競技場（代々木体育館）」や「東京カテドラル聖マリア大聖堂」（共に1964年）に至る足跡を追うことを目的としている。出品された写真を通じて、傑^{マスターピース}作が生み出されるモーメントの在処を体感していただきたい。

展覧会ゲストキュレーター 豊川斎赫

丹下健三プロフィール

丹下健三 Kenzo Tange （1913-2005年）

建築家、都市計画家。大阪府生まれ。

1938年東京帝国大学工学部建築学科卒業後、前川國男建築事務所に就職し、「岸記念体育会館」（1941年）等を担当。退職後、東京帝国大学大学院に入学し、大東亜建設記念造営計画設計競技にて一等となる。戦後、東京大学建築学科助教授となり、丹下研究室で独自の都市解析を進める傍ら、戦後日本の復興を象徴する数々の公共建築の設計を手がけた。この間、丹下研究室から大谷幸夫、下河辺淳、榎文彦、神谷宏治、磯崎新、黒川紀章、谷口吉生といった、多くの著名な建築家、官僚が輩出されたことでも知られる。1974年東京大学を定年退職後、中近東、アフリカ、ヨーロッパ、シンガポールなどで広大な都市計画、超高層計画を実現し、「世界の Kenzo Tange」と呼ばれるに至った。

代表作に「広島平和会館原爆記念陳列館」（1952年）、「東京都庁舎」（1957年）、「香川県庁舎」（1958年）、「国立屋内総合競技場（代々木体育館）」（1964年）、「東京カテドラル聖マリア大聖堂」（1964年）、「山梨文化会館」（1966年）、「日本万国博覧会フェスティバルプラザ」（1970年）、「ナイジェリア新首都都心計画」（1982年）、「東京都新庁舎」（1991年）などが挙げられる。主著に『丹下健三：一本の鉛筆から』（1997年、日本図書センター）など。



丹下健三ポートレート
1953年頃撮影
撮影者不明
成城の自邸の工事現場を訪れた際に撮影されたもの。

展覧会 監修者、ゲストキュレータープロフィール

監修者

岸 和郎 Waro Kishi

建築家。1950年神奈川県生まれ。
京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授。
1993年～2010年、京都工芸繊維大学にて教鞭をとる。その間、カリフォルニア大学バークレー校、マサチューセッツ工科大学で客員教授を歴任。2010年から現職。1993年、日本建築家協会新人賞、1996年、日本建築学会賞など、受賞多数。



ゲストキュレーター・シンポジウムモデレーター

豊川斎赫 Saikaku Toyokawa

建築家、建築史家。1973年宮城県生まれ。
国立小山工業高等専門学校建築学科准教授、芝浦工業大学大学院非常勤講師。工学博士、一級建築士。
東京大学大学院工学系建築学専攻修了後、日本設計を経て現職。著書に『群像としての丹下研究室』（2012年、オーム社、日本建築学会著作賞）など。



関連イベント

シンポジウム名（日） 丹下健三没10年『今、何故、丹下なのか』を問う

シンポジウム名（英） 10 Years After Kenzo Tange — 'Why Tange Now?'

日時 2015年3月22日（日） 13:00開場、14:00開演、17:30終演（予定）

会場 建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）

定員 350人

参加費 無料

参加方法 事前申込制。申込期間内にTOTOギャラリー・間ウェブサイトよりお申し込みください。
URL=<http://www.toto.co.jp/gallerma/>

抽選の上、2015年3月13日（金）までに結果をご連絡いたします。

お申込期間 2014年12月1日（月）～2015年2月15日（日）

プログラム 第1部 「不安と混乱に満ちた1950年代を駆け抜けた丹下健三」

14:00-14:20

講演者：豊川斎赫

第2部 「20世紀に丹下健三は何を成し遂げたのか？」

14:20-15:50

パネリスト：土居義岳、山梨知彦、米田 明

モデレーター：豊川斎赫

第3部 「21世紀に丹下健三は可能か？」

16:00-17:30

パネリスト：岸 和郎、北山 恒、内藤 廣

モデレーター：豊川斎赫

シンポジウムパネリストプロフィール

北山 恒 Koh Kitayama

建築家。1950年香川県生まれ。
architecture WORKSHOP 主宰、横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授。
主な作品に「洗足の連結住棟」（日本建築学会作品賞、アルカシア建築賞ゴールドメダル、日本建築家協会賞）、「祐天寺の連結住棟」（日本建築学会作品選奨）。著書に『北山恒の建築空間 in-between』（2014年、ADP）、『TOKYO METABOLIZING』共著、2010年、TOTO 出版）など。



土居義岳 Yoshitake Doi

建築史家。1956年高知県生まれ。
東京大学建築学科卒、同博士課程満期退学、工学博士。パリ・ラ・ヴィレット建築大学卒、フランス政府公認建築家。現在、九州大学大学院教授。著書に『言葉と建築』（1997年、建築技術）、『建築と時間』（2000年、岩波書店）、『アカデミーと建築オーダー』（2005年、中央公論美術出版）など。



内藤 廣 Hiroshi Naito

建築家。1950年神奈川県生まれ。
東京大学名誉教授。1976年早稲田大学大学院修了。フェルナンド・イゲラス建築設計事務所、菊竹清訓建築設計事務所を経て、1981年内藤廣建築設計事務所を設立。2001～11年、東京大学にて教授、副学長を歴任。主な作品に、「海の博物館」、「安曇野ちひろ美術館」、「牧野富太郎記念館」、「島根県芸術文化センター」、「虎屋京都店」、「旭川駅」、「九州大学椎木講堂」など。



山梨知彦 Tomohiko Yamanashi

建築家。1960年神奈川県生まれ。
1984年東京芸術大学建築科卒業。1986年東京大学大学院修了、日建設計に入社。現在、執行役員、設計部門代表。代表作に「ルネ青山ビル」、「神保町シアタービル」、「乃村工藝社」、「木材会館」、「ホキ美術館」、「NBF 大崎ビル（ソニーシティ大崎）」など。
「日本建築大賞（ホキ美術館）」、「日本建築学会作品賞（NBF 大崎ビル）」などを受賞。



米田 明 Akira Yoneda

建築家。1959年兵庫県生まれ。
京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授。
1982年東京大学工学部建築学科卒業。1984年同大学院修士課程修了。1984～89年竹中工務店設計部。1991年ハーバード大学大学院 GSD 修士課程修了。同年、建築設計事務所アーキテクトン設立。



関連書籍

書籍タイトル 『TANGE BY TANGE 1949-1959／丹下健三が見た丹下健三』

監修 岸 和郎

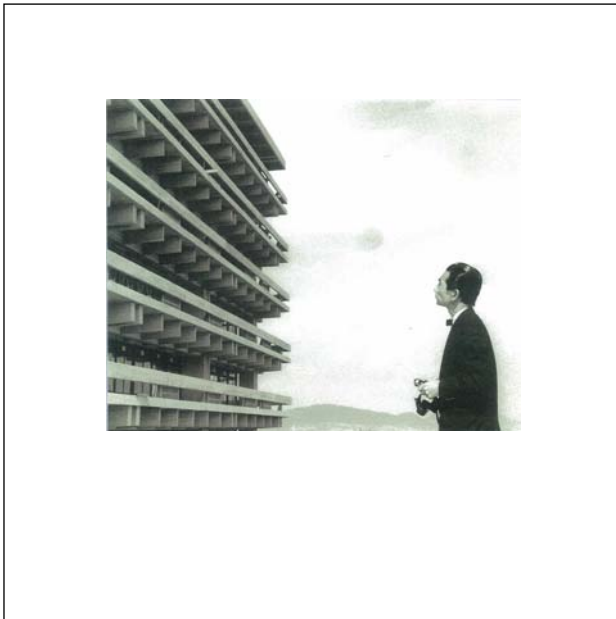
編著 豊川斎赫

発行日 2015 年 1 月中旬

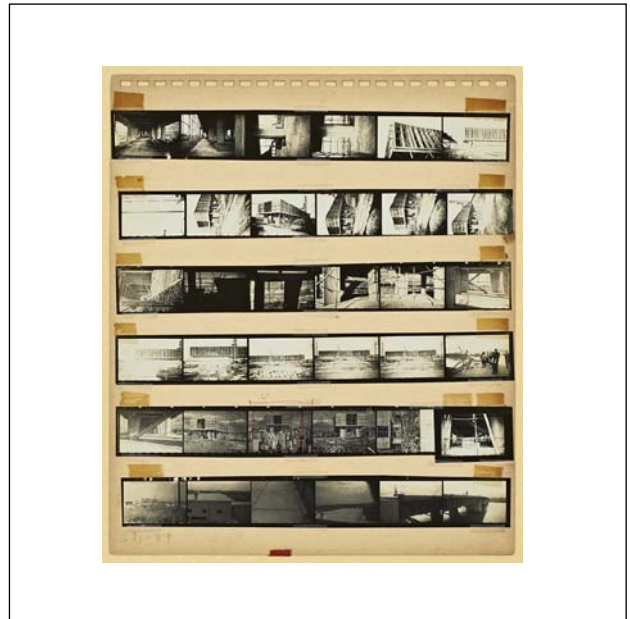
体裁 270×310mm、布上製、角背、294 ページ、オールカラー、和英併記

発行 TOTO 出版 (TEL=03-3402-7138 URL=<http://www.toto.co.jp/publishing/>)

※写真のトリミング線は当時丹下健三自身が入れたもの



[1] カメラを手に竣工当時の香川県庁舎と対峙する丹下
1958年頃撮影 撮影者不明
当時、丹下は「石が中世の感動をよびさましたように、コンクリートは現代の感動を人びとに伝えてくれるにちがいない」と考えていた。



[2] 丹下健三が自身の作品を自ら撮影したコンタクトシート。(写真は「広島平和会館原爆記念陳列館」の施工現場風景)



[3] 広島平和会館原爆記念陳列館（広島県広島市、1952年）1952年撮影 ©丹下健三
墓地の中から立ち上がる広島平和会館原爆記念陳列館。この敷地はもともと墓地であった。墓石自身原爆に照射され焼けている。その墓を守る人もいなくなり、多くは無縁仏になった。



[4] 住居（自邸）（東京都世田谷区、1953年）
1956年 ©丹下健三
丹下がヘリコプターにて上空より自邸を空撮した写真。

※写真のトリミング線は当時丹下健三自身が入れたもの



[5] 愛媛県民館（愛媛県松山市、1953年）1954年撮影
©丹下健三
敷地背後の松山城の城山より俯瞰した写真。



[6] 広島平和会館原爆記念陳列館
（広島県広島市、1952年）1955年撮影
©丹下健三
1955年8月6日の原爆慰霊祭に集まった群衆を
捉えた写真。



[7] 東京都庁舎（東京都千代田区、1957年）1957年撮影
©丹下健三
水平垂直とあおりを基本とする建築写真の作法に
反し、カメラを斜めにカメラを斜めにカメラを斜めに
撮影。



[8] 倉吉市庁舎（鳥取県倉吉市、1957年）1957年撮影
©丹下健三
RC造において木造の木割りを当てはめ、繊細な表現
を追求した。

※写真のトリミング線は当時丹下健三自身が入れたもの



[9] 香川県庁舎（香川県高松市、1958年）1958年撮影
©丹下健三
香川県庁舎南庭から低層棟ピロティ（右）と高層棟（左）を捉えた夜景写真。



[10] 繊維業会館
（設計：ル・コルビュジエ、インド、アーメダバード、1956年）1957年撮影 ©丹下健三
サンパウロ・ピエンナーレの帰路に立ち寄ったインドでコルビュジエ建築を見学した。



[11] マサチューセッツ工科大学（MIT）製図室（丹下スタジオ）の風景（アメリカ、マサチューセッツ州）1959年撮影 ©丹下健三
丹下は1959年から半年間、マサチューセッツ工科大学（MIT）の客員教授を務めた。この丹下スタジオで検討された海上都市案が、後に「東京計画1960」に進展してゆく。



[12] 丹下健三ポートレート
1953年頃撮影、撮影者不明
成城の自邸の工事現場を訪れた際に撮影されたもの。